

# jFUNU Newsletter

公益財団法人 国連大学協力会  
〒150-8925 東京都渋谷区神宮前 5-53-70  
TEL 03-5467-1368 FAX 03-5467-1349  
URL <http://www.jfunu.jp/> E-mail [jf@unu.edu](mailto:jf@unu.edu)

■ 国連大学協力会 2011 年度活動報告	
● 基本方針／寄付金募集活動／広報活動	P1
● 講演会・セミナー・シンポジウム	P2
● 助成活動／調査研究活動／協力事業	P3
● 決算概要等	P4

## 活動の基本方針

**国**連大学が2010年9月に創設した大学院「サステナビリティと平和研究科」は、サステナビリティ、気候変動、開発、平和構築、人権といった国連及びその加盟国が直面している喫緊の地球規模課題に対し、自然科学、社会科学、人文科学を融合させた学際的なアプローチによって、幅広い理解と卓越した問題解決能力をもって取り組む人材の育成を目指しています。同研究科を修了した学生は、国連機関その他の国際機関、政府関係機関、国際NGO等において、地球規模課題の解決に大きく貢献することが期待されます。

「サステナビリティと平和研究科」では開設2年目となる2011年度、世界各国から283名の応募があり、そのうち12名を入学させました。同大学院は、アフリカ・ガーナ国アクラにある国連大学自然資源研究所(UNU-INRA)とツイン研究所を組織し、アフリカにおける持続発展教育を推進していますが、日本政府によるアフリカ支援の取り組みとの協働、連携も実施しています。

国連大学大学院が近い将来、国内の学術機関や諸団体と相互的な協力・連携を行うことによって、日本社会のさらなる国際化と国際貢献の進展も期待されています。

そこで、国連大学協力会(jFUNU)の2011年度の事業活動は、端緒についた国連大学大学院「サステナビリティと平和研究科」の教育研究活動に対する我が国国民の関心を一層高め、また、資金的に援助する体制を整備し、さらにこの大学院の基盤である「国連大学サステナビリティと平和研究所(UNU-ISP)」並びに横浜に設置されている「国連大学高等研究所(UNU-IAS)」の研究プログラムについても支持を強化するための戦略的な取り組みを積極的に展開し、本法人の公益事業の活性化を図ることを基本方針としました。

## 公益財団法人 国連大学協力会 2011 年度活動報告

### 寄付金募集活動

#### ● 国連大学大学院「サステナビリティと平和研究科」 支援募金活動

jFUNUでは、国連大学の大学院創設の意義に鑑み、2010年秋にこの大学院に世界各国から集う学生、特に開発途上国の学生の修学上の支援を行うため、新たな賛助会員システム「国連大学大学院サステナビリティと平和研究科」奨学助成賛助会員(「jSchoraship for UNU 賛助会員」)をスタートさせました。

この大学院の入学定員は、修士課程20名・博士課程10名で、修士(M.Sc サステナビリティと平和研究)及び博士(Ph.D サステナビリティと平和研究)で、2011年度以降、入学学生の数も増加し、かつ学年進捗とともに奨学金を必要とする学生の需要も高まりました。学生への奨学助成は、安定的、継続的に助成することが必要であることから、この賛助会員システムによって行い、賛助会員の募集にあたっては、産業界との連携を強化し、企業団体等に広く協力を求めるとともに、一般国民へもjSchoraship for UNU 賛助会員への参加を呼びかけました。

#### ● 一般寄付金、賛助会員募集活動

さらに、従来より継続的に実施している任意の時期に任意の寄付金を幅広く国民各層から受け入れる「一般寄付金」及び個人及び法人・団体からの「一般賛助会費」による寄付金募集活動を展開しました。

### 国連大学の活動及び地球規模課題解決 に係る広報・キャンペーン

国民の各界各層に、緊急の地球規模課題を解決することが人類の平和と発展に不可欠であることを周知させるとともに、その課題解決に取り組む国連大学及び本法人の活動に対し、幅広く理解と関心を高め、人々や企業から支持が得られるよう、広報・キャンペーンを行いました。

#### ● 広報資料の作成・頒布

jFUNU ニュースレターにおいて、国連大学の研究者や短期コース受講生へのインタビューを掲載するなど、国連大学を国民に身近に感じてもらえるよう編集内容に工夫を凝らしてきましたが、大学院の設置に伴ないカリキュラム内容や学生の研究テーマなど、よりいっそう

具体的に教育活動の様子を伝えました。また、「平和構築プログラム」「ウ・タント記念講演」「震災復興支援シンポジウム」など、国連大学が主導するプロジェクトについて紹介し、国連大学の展開する多彩な活動内容をアピールしました。さらに、国連大学と本法人の活動内容をより具体的に伝えるよう、各種パンフレットを制作・改定し、賛助会員や企業関係者を中心として幅広く頒布し、国連大学と本法人の活動に関わる情報提供と広報に努めました。

#### ● インターネットによるキャンペーン

インターネットによる広報展開を拡充し、イベント情報の積極的な告知やニュースレターの記事転載を行うとともに、UNU-ISP ウェブサイトとの連携を図りながら、国連大学とその活動内容をより広範に紹介しました。また賛助会員や本法人へのコンタクトを希望する人々に、国連大学及び本法人のイベント案内を中心にメールマガジンの配信によって機動的な広報を展開しました。

#### ● レクチャーシリーズの発刊

本法人では、国連大学および本法人の活動の一端を紹介し、世界の緊急課題についてより多くの人々に知ってもらい、その解決に役立てるため、地球規模課題解決のためのシンポジウムの内容を一般の人々に解説する導入書として「レクチャーシリーズ」を発刊してきましたが、2011年度は、2010年7月に実施したシンポジウム「グローバル化した保健と医療」の内容を編集・収録し、シリーズ4巻目として発刊しました。同書では、地球規模で緊急に解決が求められている保健・医療の課題を実践的な視点から浮き彫りにすると同時に、地域における人々の生活と疾病・保健の現状に焦点を向け、社会的な問題にも光を当てました。

### 地球規模課題解決に関する 知識普及のための講演会・セミナー・ シンポジウム等

国民の各界各層に、人類の生存や福祉、発展に関わる緊急の地球規模課題解決のための知識を深めてもらうために、国連大学の教育・研究成果の公開を主にしながら人々の関心を高め、特に若年層の人々の育成に資するため、講演会やセミナー・シンポジウムを行うものですが、2011年度は、3月11日に発生した東日本大震災に鑑み、震災復興と環境をテーマとしたものも取り上げ、実施本数も例年の倍となりました。

#### ● 講演会等

2011年度は、“Friends of UNU”シリーズとして、10月28日(金)に国連大学と共催で国連大学本部において「自然共生社会と震災からの復興」をテーマに環境省自然環境局長渡邊綱雄氏の講演を実施しました。

#### ● 震災復興支援シンポジウムと震災写真展の開催

国連大学サステナビリティと平和研究所では、農林水産省、環境省とともに5月22日に「震災復興支援シンポジウム」を開催しましたが、本法人では同シンポジ

ウムに運営面で協力し、またサイドイベントとして日本経済新聞社の協力を得て、震災写真展を主催しました。

シンポジウムではNPO法人「森は海の恋人」の代表として畠山重篤氏を迎え基調講演を実施。講演に続くパネルディスカッションでは、生物多様性や農林漁業の振興など多様な観点から震災復興と地域の再生を議論しました。

#### ● 横浜国立大学との共同セミナー

11月26日、国連大学及び横浜国立大学との共催で、公開シンポジウム「持続可能性とリスクマネジメント 地球環境・防災を融合したアプローチ」を横浜国立大学・教育文化ホールで開催しました(後援:外務省、文部科学省、環境省、国土交通省他)。地球環境問題が深刻化する中で、環境と防災をトータルに考えたこれからの持続可能なリスクマネジメントをテーマに取り上げ、生態系が持っている多機能性や回復力を活かすリスクマネジメントの方向性と課題を考察しました。

#### ● jfUNU/UNU ジュニアフェロー・シンポジウム 2011

「jfUNU/UNU ジュニアフェロー・シンポジウム」は、



2006年以来、国連大学本部の実施する人材育成コース修了者のフォローアップと修了生同士の連携の場を提供することを目的として、国連大学協力会と国連大学の共催によって実施されてきました。

2011年度は、国連大学サステナビリティと平和研究所と共催し、「人間の安全保障ー新たな展開を目指して」(後援:文部科学省、外務省)と題して12月16日に開催しました。

従来「国家間の問題」と捉えられてきた「安全保障」の問題は、近年では、個人に対するさまざまな脅威、すなわち環境破壊や人権侵害、難民、感染症、食物汚染、貧困等を防ぎ、「人間個々の安全を保障すべき」という新しい概念が加わってきています。こうした最近の状況を踏まえ、このシンポジウムでは、人間の安全保障の概念が国際法に及ぼす影響を中軸として、自然災害、平和構築、教育開発など多様な観点からアプローチを試み、人間の安全保障について新たな展開を探りました。シンポジウムには、国連大学大学院の学生も多く参加し、活発な質疑応答がなされました。

## 国連大学への助成活動

国連大学の主たる活動は、緊急の地球規模課題解決を図ることを目的として、研究所を主体として進める研究活動と大学院または短期講座における教育活動です。この事業では、国連大学の研究活動及び教育活動の推進が、人類の発展と平和に重要な貢献を果たす観点から、国連大学の研究活動及び教育活動並びに教育研究環境整備に対して助成を行いました。国連大学への助成に当たっては、国連大学が真に必要なとする分野の活動について、事前に国連大学関係者との連絡調整のもとに助成対象事業などを検討するとともに、具体的助成事業の選定・助成額配分などについては、本法人の「助成諮問委員会」の十分な審議を経て行いました。

### ● 国連大学の教育活動への助成

国連大学の教育活動は、緊急で世界的・地球規模課題の解決に従事するための高度かつ専門的な若い人材の育成を目的とする大学院レベルの教育です。学生たちは、これら国連大学の行う教育課程を修了後、それぞれの専門を生かして、世界の緊急課題の現場や学術機関において即戦力として貢献することが期待されます。本法人では、このことの重要性に鑑み、大学院サステナビリティと平和研究科の学生の修学を支援するための助成と、従来より国連大学本部において実施されている短期研修事業への助成を行いました。

### ● 大学院「サステナビリティと平和研究科」の学生奨学経費助成

この助成事業は、正規の学位授与機能（修士・博士）をもつ大学院研究科の学生たちが、長い場合には5年以上にわたり日本に滞在しながら、学位論文作成のための勉強と研究活動に専念できるような生活環境を提供することを目的としています。助成の内容は、学生の生活費を中心とした補助です。特に開発途上国からの学生への支援を重視しており、2011年度は「jfScholarship for UNU 賛助会員」制度に基づく賛助会員企業からの寄付金を元に、1年次学生、2年次学生それぞれ2名、合計4名に奨学金助成を行いました。

### ● 国連大学グローバル・セミナー

国連大学が行っている研修事業のうちもっとも歴史が長く、多くの修了生が国連や国際機関、教育機関に従事している実績を持つ事業です。短期研修(1週間)ですが、毎年、幅広い観点から、国際平和と環境・開発の問題を取り上げてきました。また、同セミナーには、日本の若者も多く参加することから、本法人としては、従来より強力に支援してきました。2011年度には「グローバル・セミナー湘南」に助成しました。

### ● UNU-ISP の行う教育活動への助成

国連大学サステナビリティと平和研究所の行う教育活動を支援するための助成金ですが、2011年度は、同研究所に設置されたサステナビリティと平和研究科が、2012年度に博士課程を開設することに鑑み、その

準備のための経費の一部を助成しました。

### ● 国連大学高等研究所 (UNU-IAS) の行う教育活動に対する助成

横浜に設置されている国連大学高等研究所の行う教育活動に対し助成しました。

### ● 国連大学の教育研究環境整備のための助成

国連大学の学生や研究者等が、安心して学習・研究に専念できる環境を維持することが、人類の生存や福祉、発展に関する緊急で地球規模課題の解決を推進する上で重要であることに鑑み、国連大学の教育・研究活動上の環境整備に対して助成しました。

- (1) 国連大学本部における教育研究のための施設整備費
- (2) 国連大学図書館の蔵書購入費

## 地球規模課題解決のための研究及び社会の取り組みについての調査・研究

### ● サステナビリティに関する取組み動向についての資料収集

緊急で地球規模課題の解決に対して、広く国民の理解と認識を得るためには、今日における地球課題解決に係る社会の取り組み、大学等における教育・研究の動向を十分把握していることが重要です。2011年度は、2010年度に引き続き、我が国社会におけるサステナビリティに関する取組み及びサステナビリティ・サイエンスに係る取組み状況について、資料収集を行いました。

## 国際相互理解の促進等に関する事業

### ● 国際相互理解事業の実施

緊急で地球規模課題の解決には、それを醸成する国際相互理解の促進がなされていることが不可欠です。jfUNU が国連大学の諸活動を支援・協力するに当たっては、国連大学本部が日本国に設置されていることの強みを活かし、国連大学の諸活動に参加する世界各国の人々に、日本理解を含む国際相互理解の促進に資する機会を提供しています。また、必要に応じ、人類の生存と福祉、発展に関わる緊急で地球規模課題解決のため、国内外における甚大な災害に際し、被災者支援及び災害復興支援を行いました。

### ● 国際情報交流事業

国連大学の研修事業は25年の歴史を持ち、この間多様な研修活動を展開し、修了生たちは、国連機関・国際機関・国際NGO・大学での研究活動など、緊急で地球規模課題解決を必要とする現場で活動しています。これらの修了生たちは、国連大学での教育期間修了後も、それぞれが関わっている課題の情報交流の機会を欲しています。jfUNU では、1999年度以来、これらの修了生たちに賛助会員等日本人学生や学識者との国際情報交流の機会を提供しました。

### ● 日本文化体験事業

国連大学の短期研修講座（単位取得コース）の受講生

を対象として、日本文化体験の一環として、10月の研修期間中に歌舞伎見学プログラムを企画・実施しました。

● 国内外の甚大な災害に対する災害復興支援

この事業は2011年3月11日に発生した東日本大震災をきっかけとして、甚大な災害から自らの力で復興に取り組む人々や団体に対し、人類の生存と発展にかかわる緊急課題解決の観点から、その取り組みを支援し、助成を行うために実施しました。jUNUでは、本法人の設置目的に照らし、国内外の甚大な災害に対する災害復興

■ 2011年度 国連大学協力会正味財産増減計算書概要

科目	決算額
<b>I 一般正味財産増減の部</b>	
1. 経常増減の部	
(1) 経常収益	
基本財産運用益	4,787,499円
特定資産運用益	15,382,631円
受取補助金	0円
受取寄付金	1,052,000円
受取賛助会費	8,755,000円
雑収益	2,917円
経常収益計	29,980,047円
(2) 経常費用	
事業費	36,647,360円
管理費	7,115,149円
経常費用計	43,762,509円
評価損益等調整前当期経常増減額	△13,782,462円
特定資産評価損益等	△1,892,000円
当期経常増減額	△15,674,462円
2. 経常外増減の部	
当期経常外増減額	0円
当期一般正味財産増減額	△15,674,462円
一般正味財産期首残高	618,456,262円
一般正味財産期末残高	602,781,800円
<b>II 指定正味財産増減の部</b>	
基本財産運用益	4,787,499円
特定資産運用益	29,589円
受取寄付金	11,830,281円
特定資産評価損	△150,000円
一般正味財産への振替額	△13,017,088円
当期指定正味財産増減額	3,480,281円
指定正味財産期首残高	184,719,600円
指定正味財産期末残高	188,199,881円
<b>III 正味財産期末残高</b>	<b>790,981,681円</b>



支援を国際交流・国際相互理解の観点から支援する活動を本法人の事業として追加することについて内閣府に認可申請を出したところ、2011年4月4日に認可されたものです。

助成対象の審査には本法人の助成諮問委員会があたり、審査に際しては国連大学が実施する地球規模課題解決の研究教育活動との関連性を重視しました。2011年度はこの災害から立ち上がり、自立的に復興に取り組んでいる3団体へ合計1,000,000円の寄付を行いました。

■ 2011年度 寄附金収入

項目	金額
一般寄付(個人3件)	52,000円
指定寄付(東日本大震災緊急支援募金) (個人57件、法人2件)	1,135,281円
一般賛助会費 (個人81件、法人6件)	1,555,000円
指定賛助会費(大学院奨学金) (個人11件、法人12件)	10,695,000円
<b>合計額</b>	<b>13,437,281円</b>

※一般寄付金及び一般賛助会費収入は全額国連大学への助成金に充てられました。

■ 2011年度 国連大学への助成内容

助成項目	金額
「国連大学大学院サステナビリティと平和研究科(UNU-ISP)」に対する助成	500,000円
「国連大学高等研究所(UNU-IAS)」に対する助成	500,000円
国連大学グローバル・セミナー湘南セッション	600,000円
「国連大学大学院サステナビリティと平和研究科」学生に対する奨学金	7,200,000円
国連大学本部の施設整備助成金	5,000,000円
国連大学図書館図書購入費	50,000円
<b>合計額</b>	<b>13,850,000円</b>

■ 2011年度 災害支援助成

助成項目	金額
特定非営利活動法人「森は海の恋人」に対する助成	500,000円
「仙台いぐね研究会」に対する助成	250,000円
特定非営利活動法人「田んぼ」に対する助成	250,000円
<b>合計額</b>	<b>1,000,000円</b>

jUNUでは賛助会員を募集しています。詳しくはウェブサイトをご覧ください。

国連大学協力会

検索